

公告 昭 36.6.13 出願 昭 34.7.3 実願 昭 34-37916

出願人 考案者 野 中 昌 久 武蔵野市吉祥寺本田南2483

代理人 弁理士 大 橋 二 郎

(全1頁)

ロ ッ ク ナ ッ ト

図 面 の 略 解

図面中第1図は使用状態に在る本実用新案ロックナットの半截縦断側面を示し、第2図はその雌ナットの一部を縦断して示した側面図である。

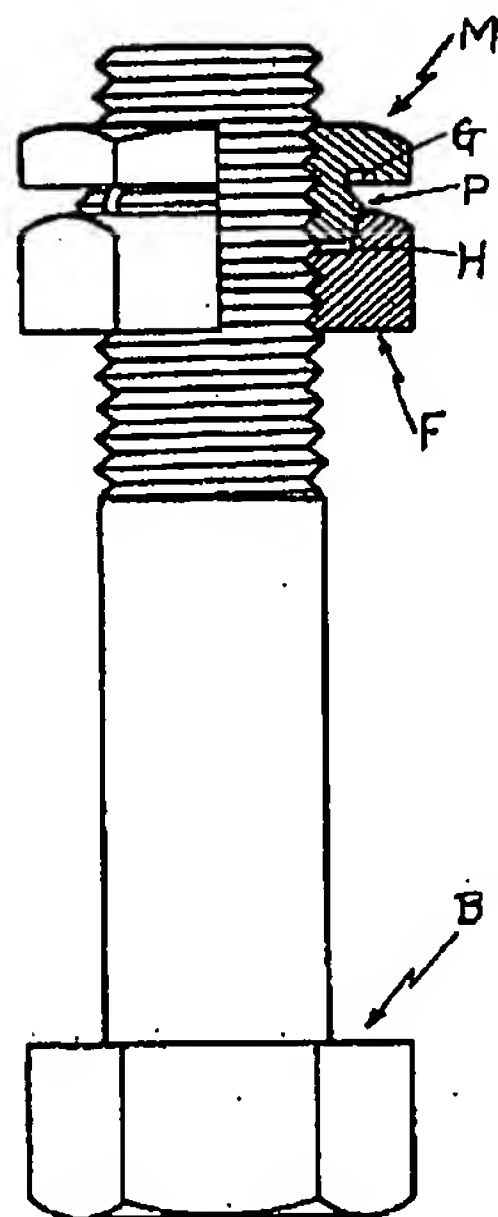
実 用 新 案 の 説 明

図面に示すように雌ナットFの円錐形凹部Hに嵌合されるべき雄ナットMの円錐形突部Pの脚部を小径とし且つ此の突部に適宜数本の縦割溝Cを切込んで適切な弾性を賦与した構造のロックナットは昭和30年以來我國內に於て既に公に知られて居り、斯る構成になるロックナットの持つ優秀な性能に就ては茲に多く述べる必要はないと考える。

而して雄ナットMの役目は元々雌ナットFとボルトBとの協働による緊締作用の弛緩を阻止するに在り、従つて之等雌雄両ナットに就ては上記の緊締確保の役目を十分に果し得る限度に於て極力その厚味を減じたいと云う要望が生れた。

此の要望を満たそうとするに当り、両ナットの

第1図



円錐形接触面積の縮減には自から限界があるため雄ナットMの上記既知の構造によれば脚部を減却するか或は少くとも脚長を極度に縮めなければならぬことになるが、斯くする時は雄ナット突部はその弾性を著しく喪失し優秀な機能を期待することが不可能となる。本実用新案は上記に鑑み、雄ナットM本件にその突部Pの基部周縁に沿つた環状凹溝Gをナットの軸方向に向て穿つことにより、円錐形突部Pの突出実長lをLに伸ばしたものである。

本実用新案は雌雄ナットには必要な接触面積を与え且つ雄ナット突部には所要の弾性を賦与してその機能を確保し而もロックナット全体の厚味を大いに縮減することに成功したものである。

登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように雌ナットFの円錐形凹部Hに嵌合する雄ナットMの円錐形突部Pの基部周縁に沿いナットの軸方向に向つて環状凹溝Gを穿り込んだロックナットの構造。

第2図

